



中野冷機株式会社

2024年12月期決算説明会資料

2025年3月13日

目次

1 2024年12月期決算の概要

2 2025年12月期業績予想

3 中期経営計画『N-ExT 2026』

4 参考資料



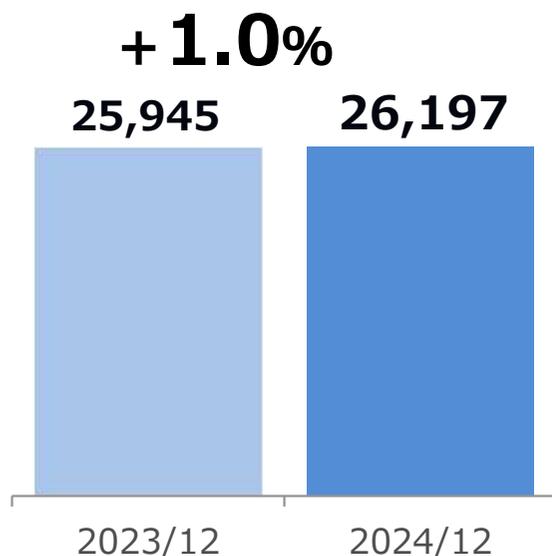
1. 2024年12月期決算の概要 業績サマリー 事業別売上高



2024年は全事業合計で売上高338億61百万円の実績（前年同期比+2.6%）

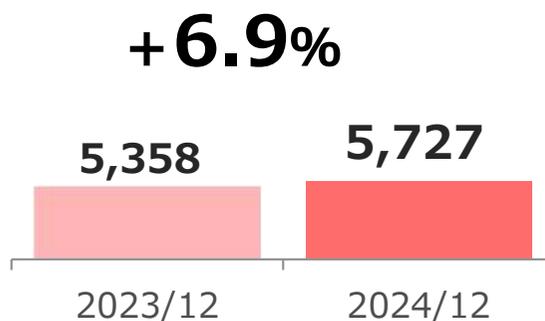
（単位：百万円）

ショーケース・倉庫事業



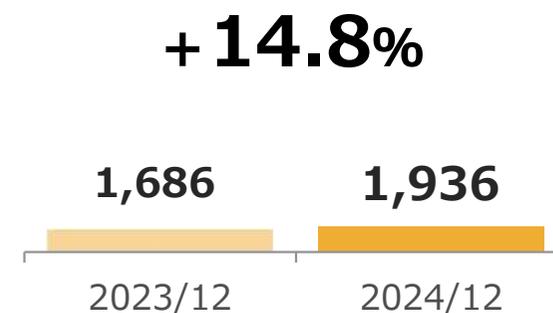
- 環境対策、店舗活性化など小売店の改装投資が好調に推移
- 物流センター向け売上は工期の遅れにより翌年度へ一部後倒し

メンテナンス事業



- 提案型メンテナンスの継続効果が続く
- 猛暑の影響により修理件数が増加

海外事業



- 中国は小売店の投資抑制が継続
- ベトナムは日系スーパーマーケットの受注獲得など好調に推移

【国別販売実績構成比】

日本：31,924百万円（94.3%） 中国：1,364百万円（4.0%） 東南アジア：572百万円（1.7%）

売上高：環境対策など、小売店の改装投資が好調だったことにより増収

利益：日本国内は賃上げ等によるコスト増があったものの、利益率の改善により増益

海外については、中国国内での小売店の設備投資抑制が継続し、利益を確保できず

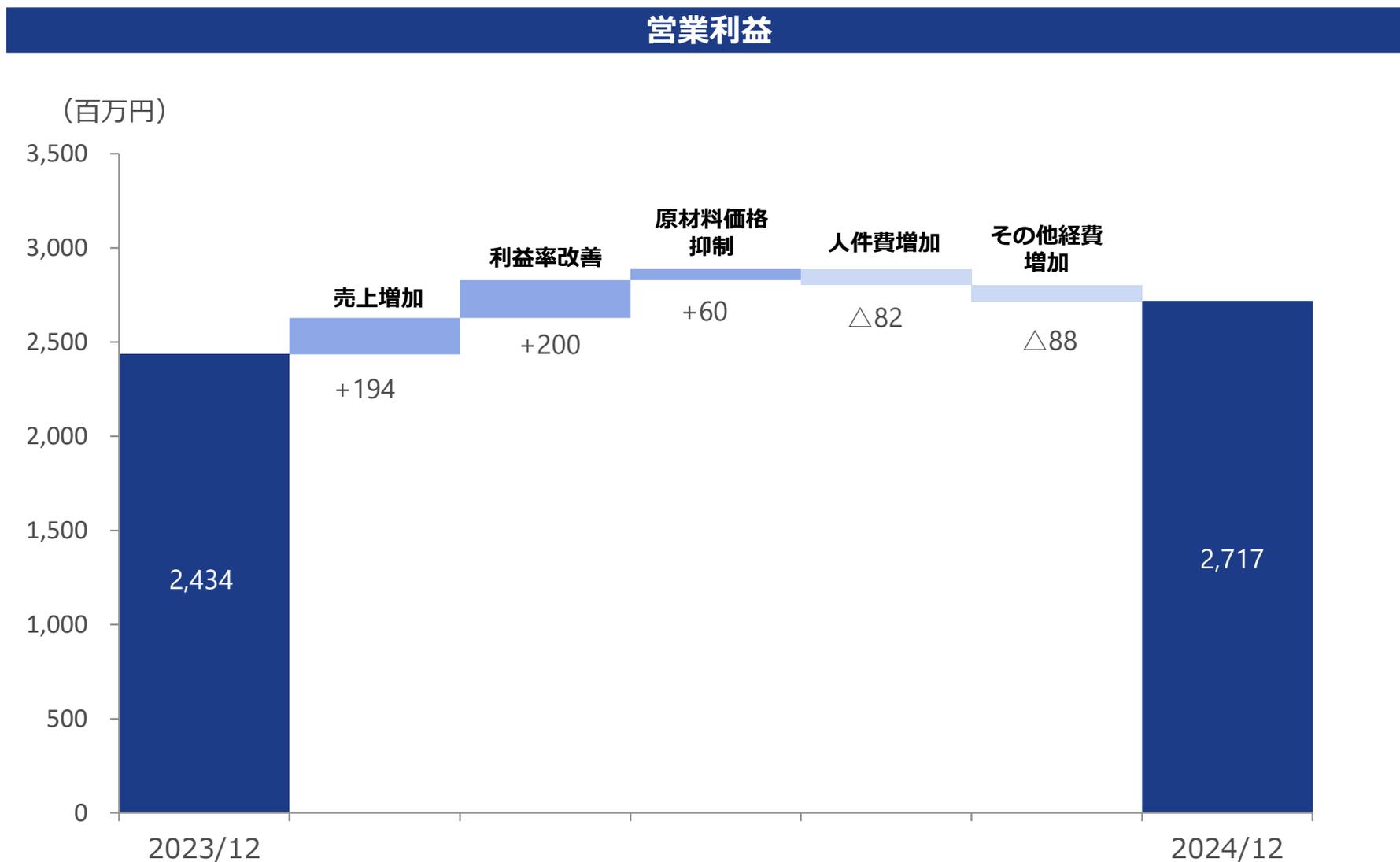
単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2023/12		2024/12				
	実績	構成比	修正予想 (24.8.9)	実績	前期比 増減	伸率	構成比
売上高	32,990	100.0	35,250	33,861	870	2.6	100.0
ショーケース ・ 倉庫事業	25,945	78.7	27,470	26,197	251	1.0	77.4
メンテナンス事業	5,358	16.2	5,380	5,727	368	6.9	16.9
海外事業	1,686	5.1	2,400	1,936	250	14.8	5.7
営業利益	2,434	7.4	2,583	2,717	282	11.6	8.0
経常利益	2,535	7.7	2,703	2,832	297	11.7	8.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,904	5.8	2,113	2,153	249	13.1	6.4

2024年12月期 増減要因分析

増益要因：売上増加に加え、利益率の改善、原材料価格の抑制により増益

減益要因：人件費・経費の増加により減益



2024年12月期 貸借対照表



2024年12月期第2四半期末
総資産 35,829百万円

+1,041百万円

2024年12月期末
総資産 36,871百万円

流動資産 +1,454



負債 +382

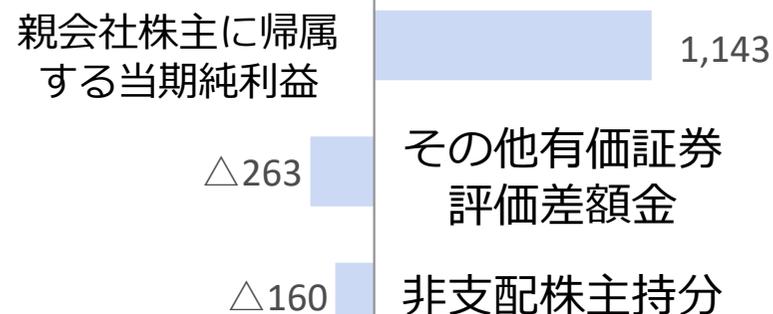
(単位：百万円)



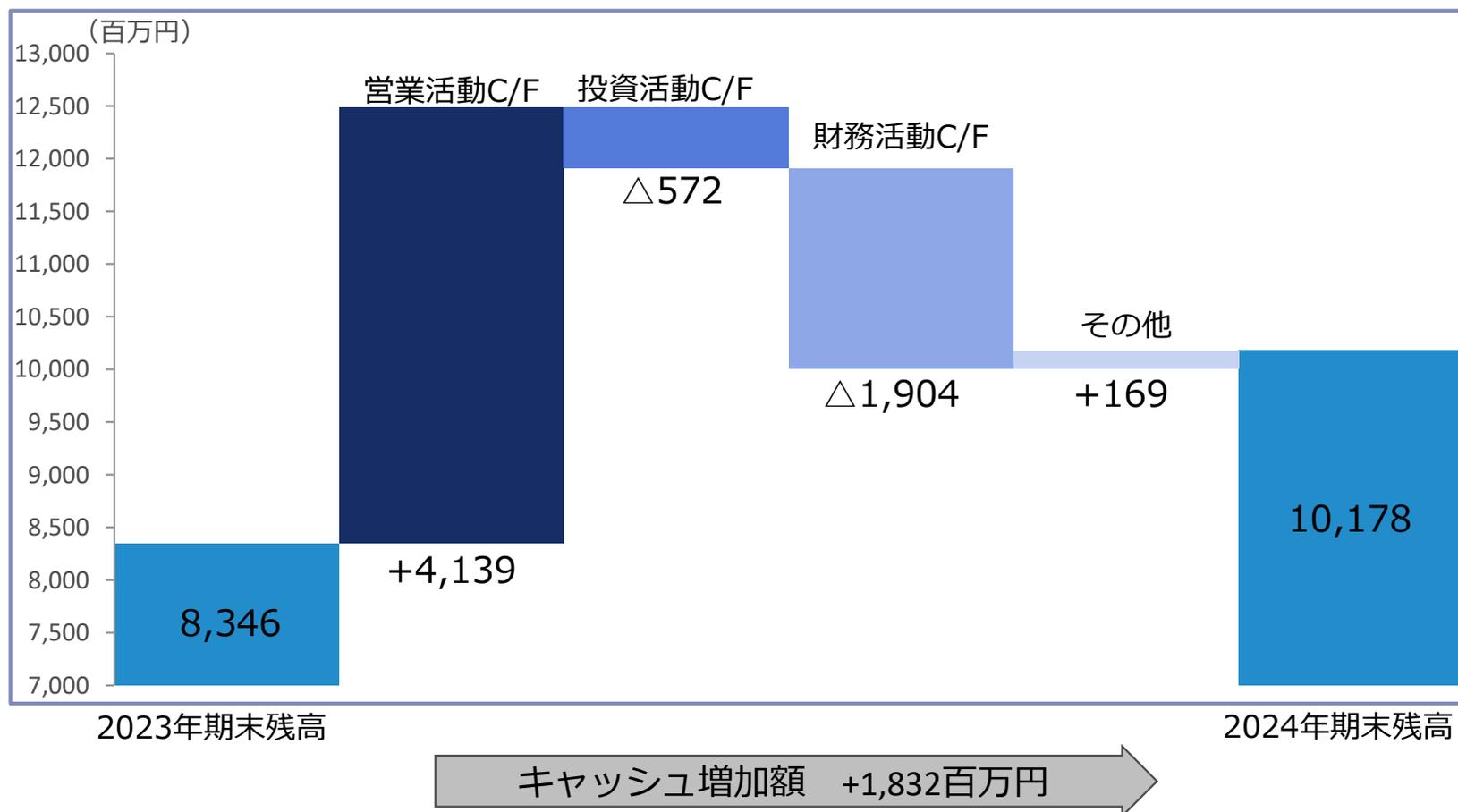
固定資産 △413



純資産 +659



自己資本比率 2024年2Q 69.6% 2024年4Q 69.9% +0.3%



【ポイント】

《営業活動C/F》

- 税金等調整前当期純利益 3,175百万円

《財務活動C/F》

- 配当金の支払額 △1,926百万円

目次

1 2024年12月期決算の概要

2 2025年12月期業績予想

3 中期経営計画『N-ExT 2026』

4 参考資料



2. 2025年12月期業績予想 業績サマリー 事業別売上高

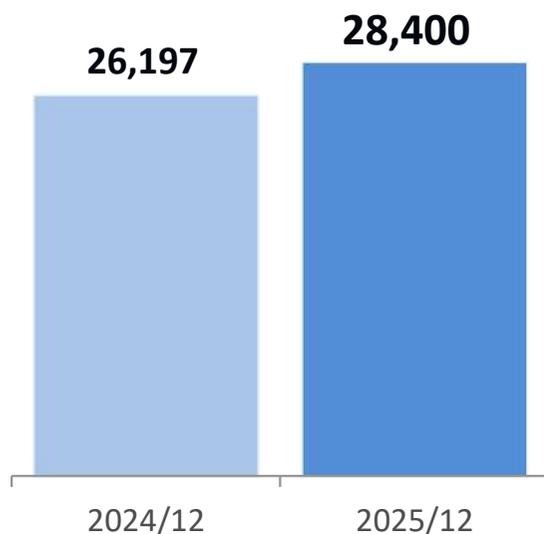


2025年は全事業合計で売上高368億円を見込む（前年同期比+8.7%）

（単位：百万円）

ショーケース・倉庫事業

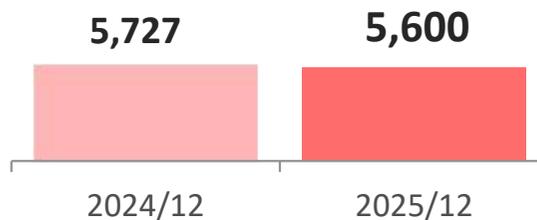
+8.4%



- 既存の顧客に対してはシェア拡大を推進
- 新規顧客の開拓と、休眠顧客の掘り起こしを実施

メンテナンス事業

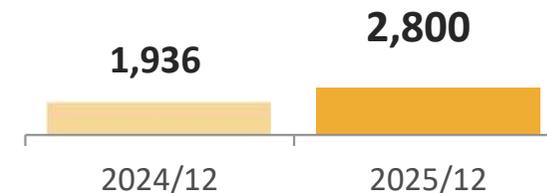
△2.2%



- 提案型メンテナンスの強化を継続
- 異常予知サービスの機能向上と導入店舗の拡大を推進

海外事業

+44.6%



- 東南アジア市場での販売を拡大
- 中国子会社の営業体制強化により黒字化に向けた取組を推進

【国別販売見込】

日本：34,000百万円（92.4%） 中国：1,949百万円（5.3%） 東南アジア：850百万円（2.3%）

2. 2025年12月期業績予想 損益計算書

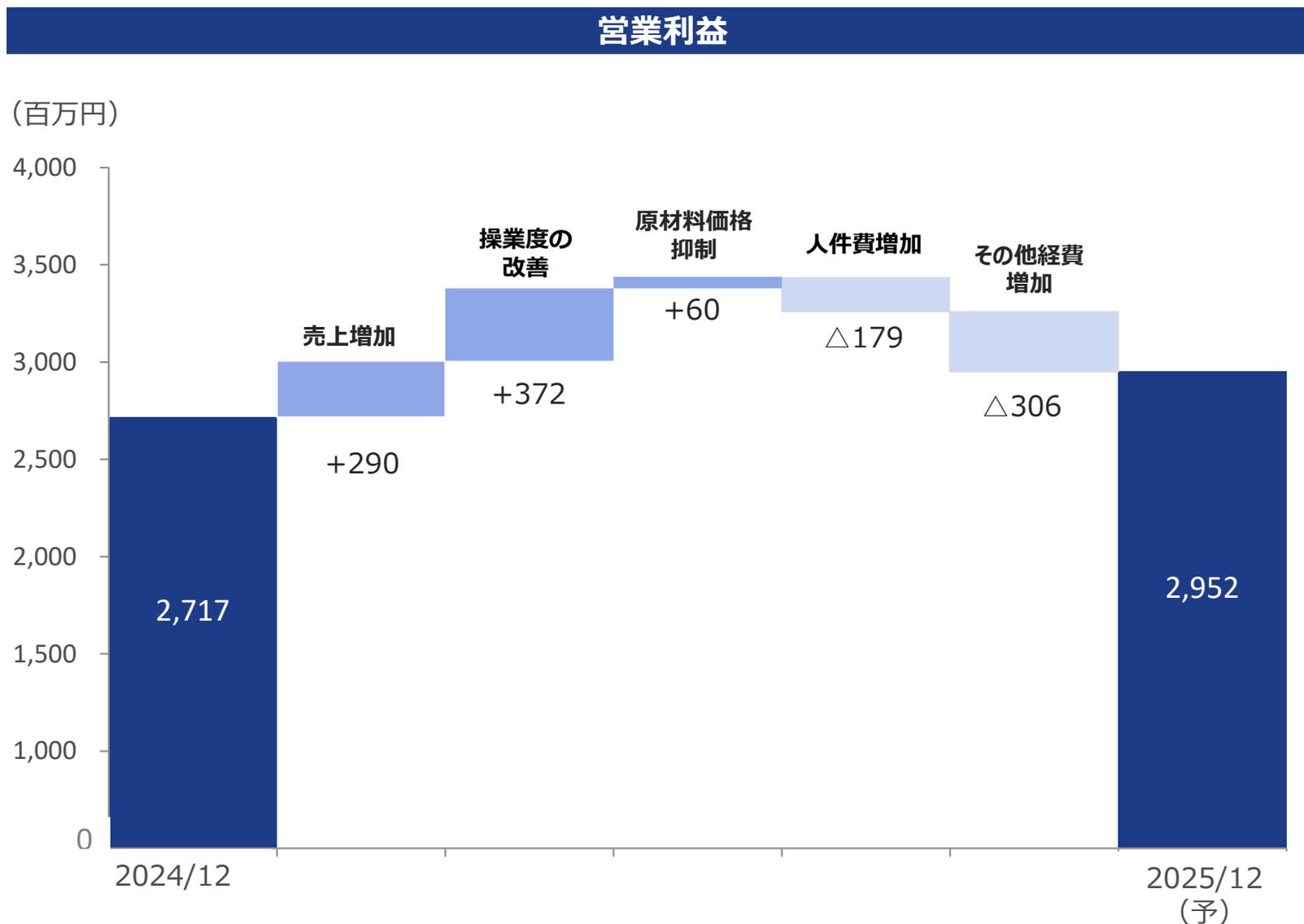


売上高：ショーケース・倉庫事業、海外事業はシェア拡大により増収を見込む
利益：人件費のコストアップも、売上増加、操業度改善により増益を見込む

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2024/12		2025/12 前期比			
	実績	構成比	予想	増減	伸率	構成比
売上高	33,861	100.0	36,800	2,938	8.7	100.0
ショーケース・倉庫事業	26,197	77.4	28,400	2,202	8.4	77.2
メンテナンス事業	5,727	16.9	5,600	△ 127	△ 2.2	15.2
海外事業	1,936	5.7	2,800	863	44.6	7.6
営業利益	2,717	8.0	2,952	234	8.6	8.0
経常利益	2,832	8.4	3,037	204	7.2	8.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,153	6.4	2,072	△ 81	△ 3.8	5.6

売上増加、操業度改善により、人件費・経費の増加を吸収して増益を見込む



2. 2025年12月期業績予想 株主還元方針



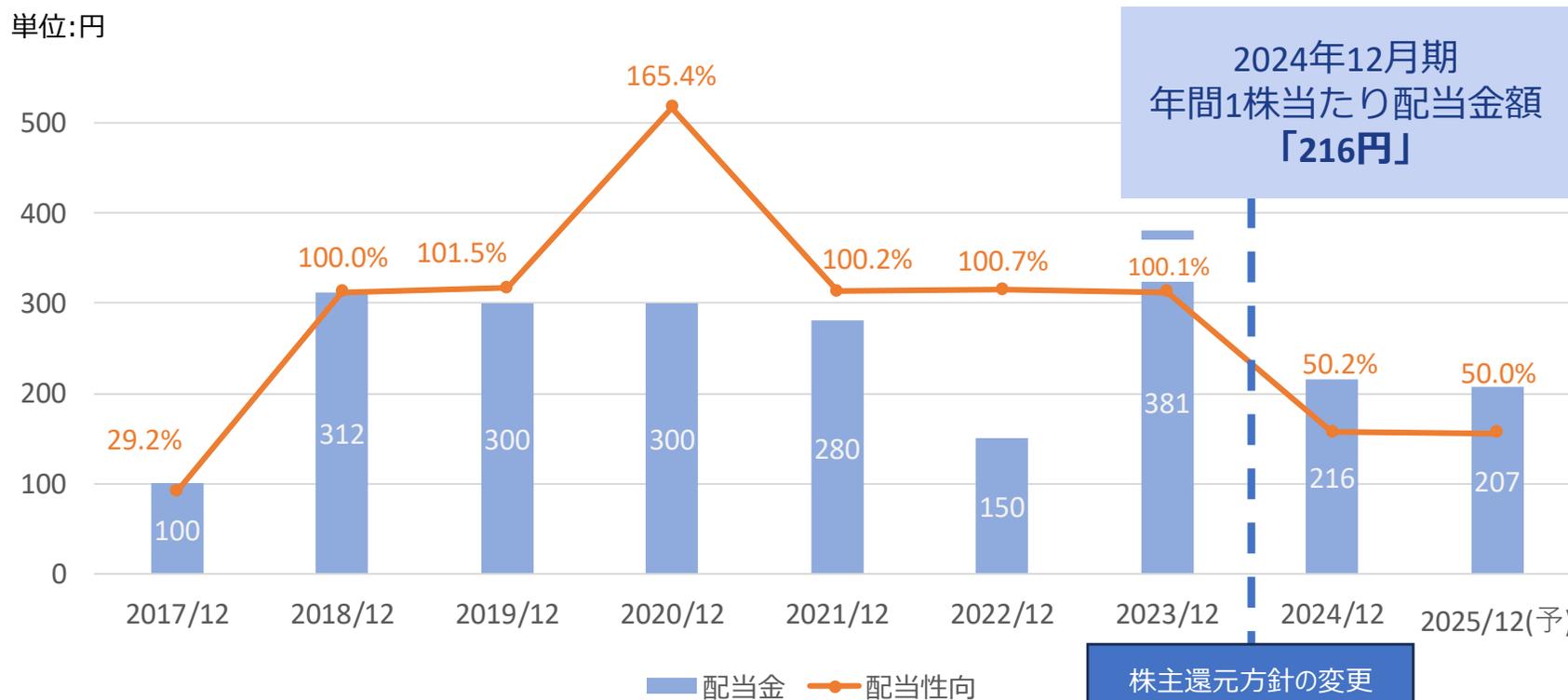
株主還元 方針 (変更後)

- 連結配当性向について年間50%以上を目標として掲げたうえで、連結業績、将来の業績見通し、事業計画に基づく投資余力・資金需要、内部留保の適切な水準などを総合的に勘案しつつ、配当金額を算出することを当社の株主に対する利益還元の基本方針とする。

変更理由

- 今後飛躍的な成長を遂げるためには、経営上の重要課題として攻めの投資が必要不可欠であると認識し、十分な投資資金を創出するため、配当性向100%を目標とする方針から転換。積極的かつ機動的な成長投資の実行を通じて、更なる企業価値向上の実現を目指す。

配当実績



目次

1 2024年12月期決算の概要

2 2025年12月期業績予想

3 中期経営計画『N-ExT 2026』

4 参考資料



2026年に向けて新たな想いを込めてコンセプトを刷新
『伝統と革新の新しい波』を起こし、企業価値の向上を図る

N-ExT 2026

～伝統と革新の新しい波を～

New Wave

新しい「波」

Evolution

進化・革新

X (Transformation)

変革

Tradition

伝統

2026

「次の100年」に向けたステップ

行動基準

「冷やす」技術をもとに最良の製品・サービスを生み出し、
顧客と共に新しい課題に取り組むことで社会に貢献する

イノベーション
-豊かさ-

事業拡大
-日本・世界へ-

サステナビリティ
-未来へ-

数値目標

連結		2024年 計画	2024年 実績	2025年 計画	2026年 計画
売上高	ショーケース ・ 倉庫事業	250億円	262億円	284億円	304億円
	メンテナンス事業	52億円	57億円	56億円	60億円
	海外事業	30億円	19億円	38億円	46億円
	合計	332億円	339億円	378億円	410億円
営業利益		23億円	27億円	28億円	33億円
EBITDA		29億円	32億円	37億円	44億円
ROE		6.8%	8.4%	8.2%	9%以上

※1 2024年1月13日 公表数値

ショーケース・倉庫事業 計画比4.8% 増



【ショーケース】

- ▶ 既存客先への営業強化と売上増進
- ▶ 新規・休眠客先への営業活動と受注獲得
- ▶ 原価低減による価格競争力の向上を目的とした、専任チームの結成と取り組み着手

【倉庫】

- ▶ 物件の大型化や地方での受注獲得が増加
- ▶ 有力ゼネコン、宅配事業者からの引き合いが旺盛

メンテナンス事業 計画比 10.1% 増



- ▶ センサムクラウド異常予知サービスの販売開始
※店舗監視システム(センサムセイバー)とクラウドサービスを利用
- ▶ 老朽化設備の更新提案等によりメンテナンス売上拡大
- ▶ DX化による業務効率化推進 (車両ディスパッチシステム他)

海外事業 計画比 35.4% 減



〈中国〉

- ▶ 中国国内客先への営業強化
- ▶ 中国で生産した製品のベトナム向け売上拡大
- ▶ 日本からの支援を受け、生産性と製品品質改善に向けた取り組みを開始

〈ベトナム〉

- ▶ 日本からの支援を受け、事業を本格始動
- ▶ 日系企業から順調に受注獲得

基本戦略

魅力的な製品・サービスの創出を加速し、既存事業の拡大と新規領域へ進出

2025年度 重点目標・施策

拡大・新規

- ケース 売上拡大、新規・休眠顧客への営業強化

 - 【拡大】 売上拡大を目指す顧客への営業強化
 - 【新規・休眠】 新規顧客の開拓、休眠顧客の掘り起こし
 - ➔ 営業幹部社員を中心に売上拡大と新規・休眠顧客への営業強化
- 倉庫 新領域事業として、一次側電気、給排水、空調換気工事の受注獲得

 - ➔ 外部企業と連携し、営業活動継続

+

継続

- ケース 環境対応製品の開発（次世代型省エネケース、プラグインケース）
- 倉庫 有力ゼネコン地方支社、宅配事業者への営業強化を継続
- 共通 物件原価率の改善（工事実行予算の管理・営業手配ミス削減）
- 共通 工場生産システム改善PJの継続、設備投資計画の再考と実行

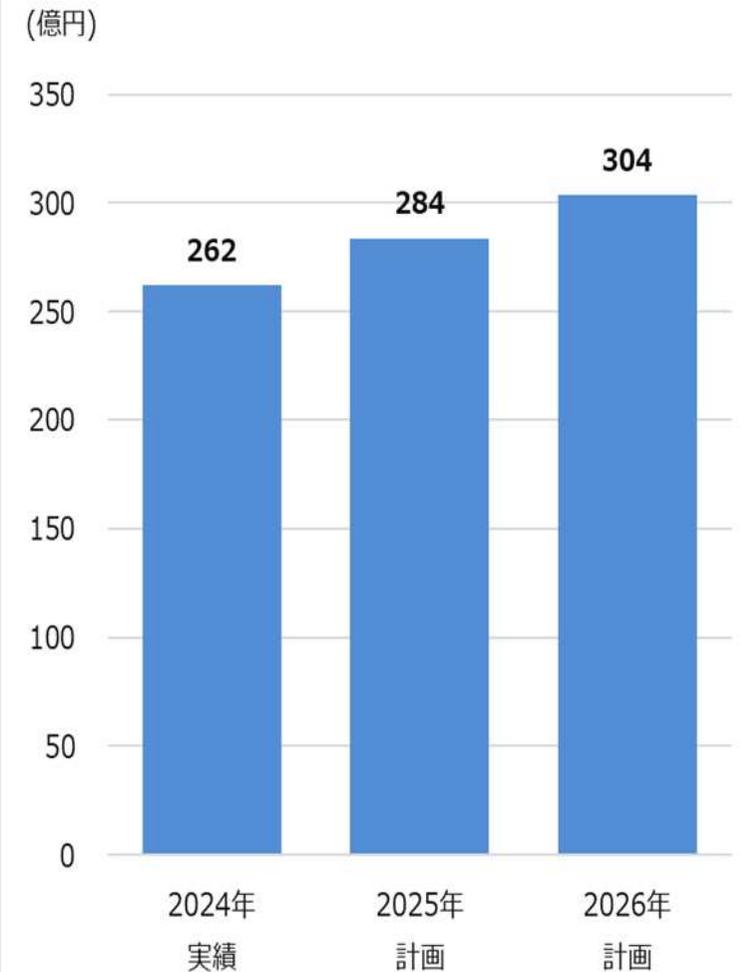


プラグインケース



自動溶接ロボット

ショーケース・倉庫事業 売上計画



基本戦略

メンテナンス対象の拡大に加え、ノウハウ × 先進技術の融合による
高収益体質事業への転換

2025年度 重点目標・施策

拡大・新規

+

継続

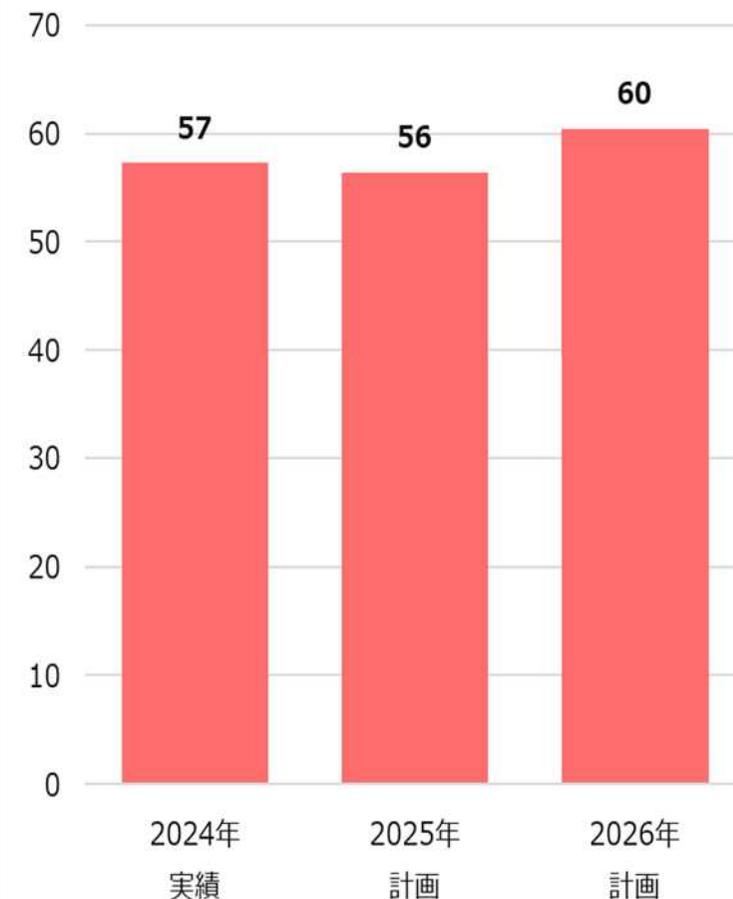
- 提案メンテナンス・物流メンテナンスの強化による売上拡大
- メンテナンス業務の効率化に向けたDX推進
 - ➡車両管理システムや遠隔メンテナンスシステムの導入範囲拡大
 - ➡夜間修理受付業務の一元管理

- 異常予知サービスの機能向上と導入店舗の拡大
- メンテナンス協力会社の支援・体制維持
 - ➡当社システムの共有を通じて、業務の効率化を実現



メンテナンス事業 売上計画

(億円)



基本戦略

アジア地域での事業拡大（ベトナム事業拡大、他の東南アジア諸国へ進出）

2025年度 重点目標・施策

拡大・新規

- 中国 大手ベンチマーク企業への参入・新規顧客への営業強化
- ベトナム 既存顧客の受注拡大・新規顧客の獲得
 →日本からの支援を強化し、営業活動を強化
- ベトナム 物流倉庫の受注獲得に向け、設計協力の獲得
 →日系ゼネコンとの情報交換、設計ノウハウの共有 等

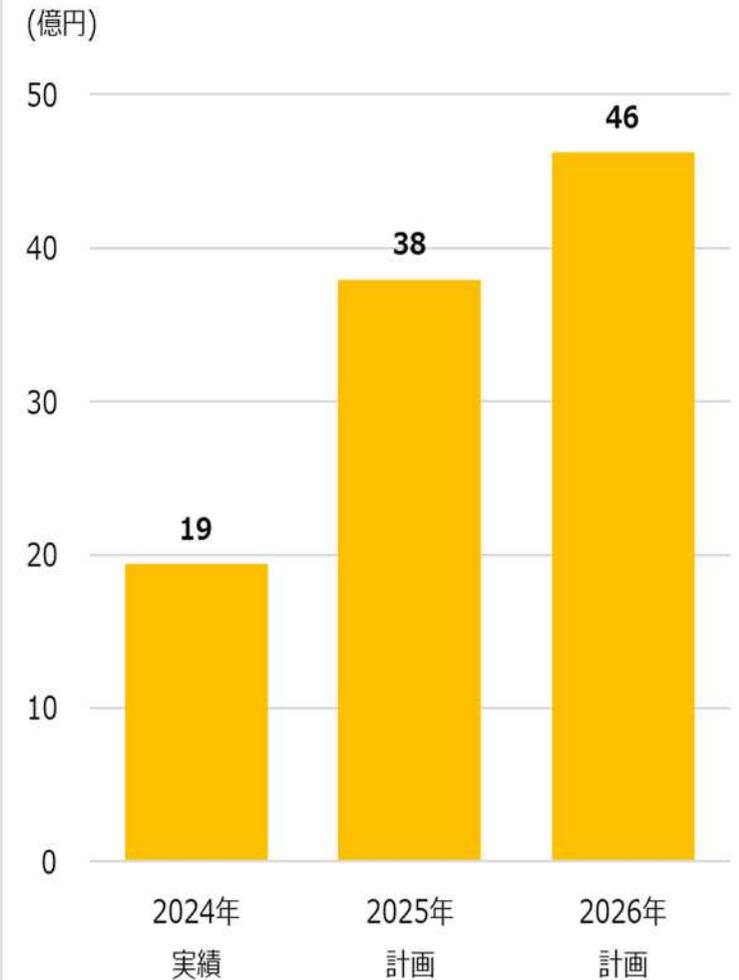
+

継続

- 中国 NAVIGATE（ベトナム）からの受注への対応継続
 →製品サプライヤとしての役割を果たし、売上拡大を目指す
- 中国 生産面における生産性改善・製品品質の改善
- ベトナム 社内体制の整備
 →社内制度の見直しと人員増強（設計、施工監理、営業人材）

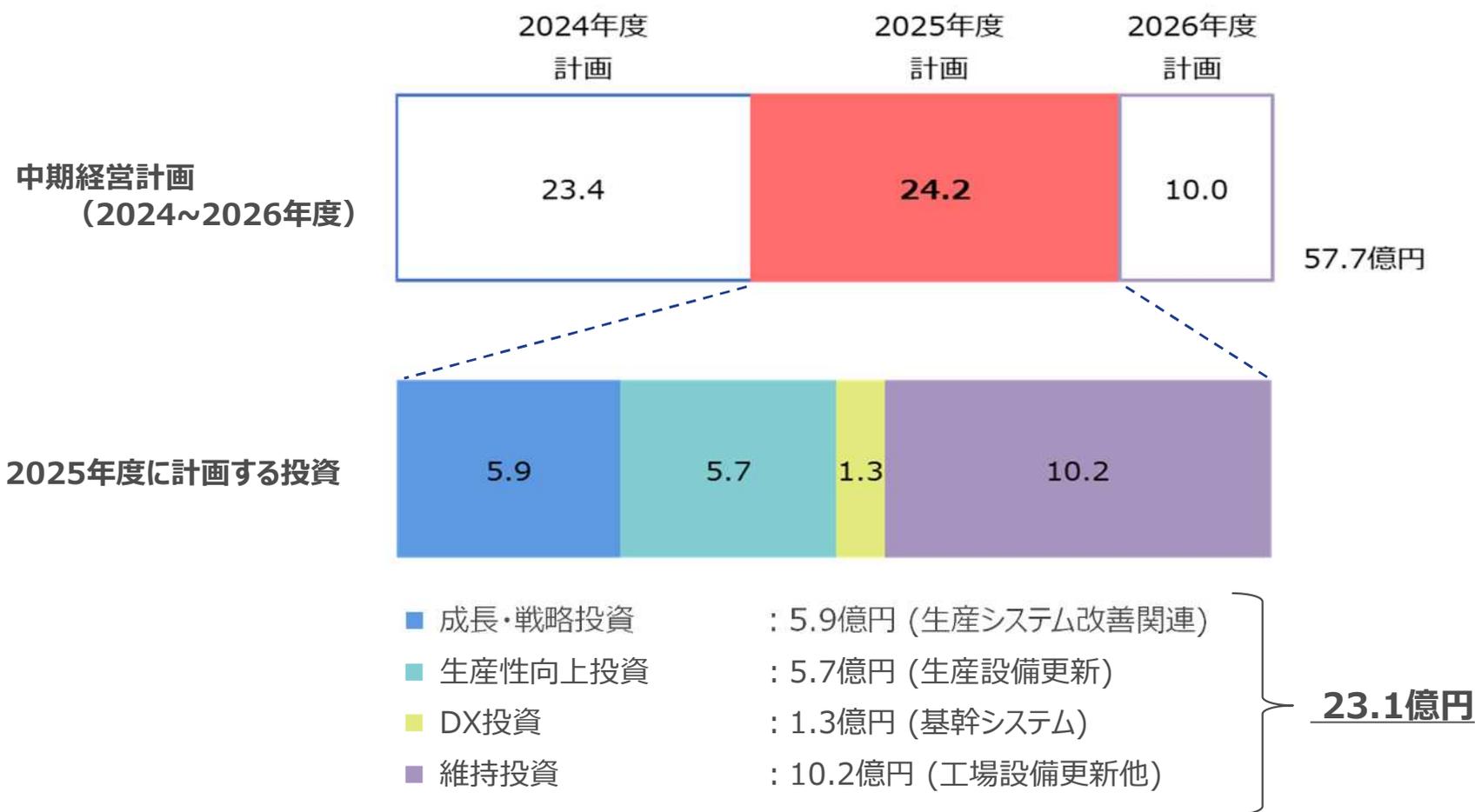


海外事業 売上計画



投資計画について

- 2024年度は、2.4億円の投資を実施。生産性向上を目的とした投資について、計画見直しに伴い遅れが発生。24年未実施分については、25年、26年以降の計画に盛り込み実施
- 2025年度は、23.1億円の設備投資を計画する



目次

1 2024年12月期決算の概要

2 2025年12月期業績予想

3 中期経営計画『N-ExT 2026』

4 参考資料





豊かな食生活を世界へ ーそして未来へー

当社グループは、創業100年で培ってきた冷凍・冷蔵技術をベースとしたお店づくりのノウハウを活かし、省エネを追求した高品質で環境に優しい製品と総合的なサービスでお客様のニーズにお応えし、鮮度ビジネス市場の発展と安心・安全で豊かな食生活の実現に貢献して参りました。

次の100年に向けて、「伝統」と「革新」の融合による新しい波・新しい価値を日本のみならず、世界にも届け、更なる豊かさを実現することを使命とし、事業活動を通じて社会に貢献して参ります。

4. 参考資料 中野冷機が目指す姿 将来実現したい中野冷機グループの姿

時代の流れ

人と健康



- 世界の人口増加、国内の労働人口減少
- 健康、食の安心・安全に対する意識向上
- 価値観の多様化、生活様式の変化

地球環境・資源



- カーボンニュートラルの実現・再エネへの転換
- 原材料・エネルギーコストの増加
- 地球温暖化による異常気象

技術・イノベーション



- 省エネ・省力化ニーズの拡大
- EC需要、デジタル消費の加速
- デジタル技術の活用による企業変革(DX)

社会



- 人件費・物流費の高騰
- 食料ロス問題の拡大、飢餓人口の増加
- カントリーリスクの増加・顕在化

当社の役割

食のバリューチェーン全体の最適な温度管理をリードする立場に

- 高品質の製品提供はもちろん、信頼性の高い施工・メンテナンスを一層強化
- 一貫したサポートで店舗・倉庫の温度管理環境を熟知
- これにより、省エネ・省人化・環境対応等を一層強化し、温度管理を通じた付加価値を提供

目指す姿

持続的な成長を通じて、社会に食の豊かさと幸福を届けるグローバル企業を目指す

- 革新的なモノ・コトづくりへの絶え間ない挑戦により業界をリードする
- 積極的な海外展開・成長投資により、更なる高収益体質企業への変貌を遂げる
- 人財育成、働きがいのある環境づくりを推進し、成長を支える組織体制を盤石なものにする

実現する世界

これまで手に入らなかったモノが、これまでになく品質で手に入る

当社製品・サービスを通じて、より新鮮・安心・安全な食品が、日本のみならず世界各国でも行き渡る

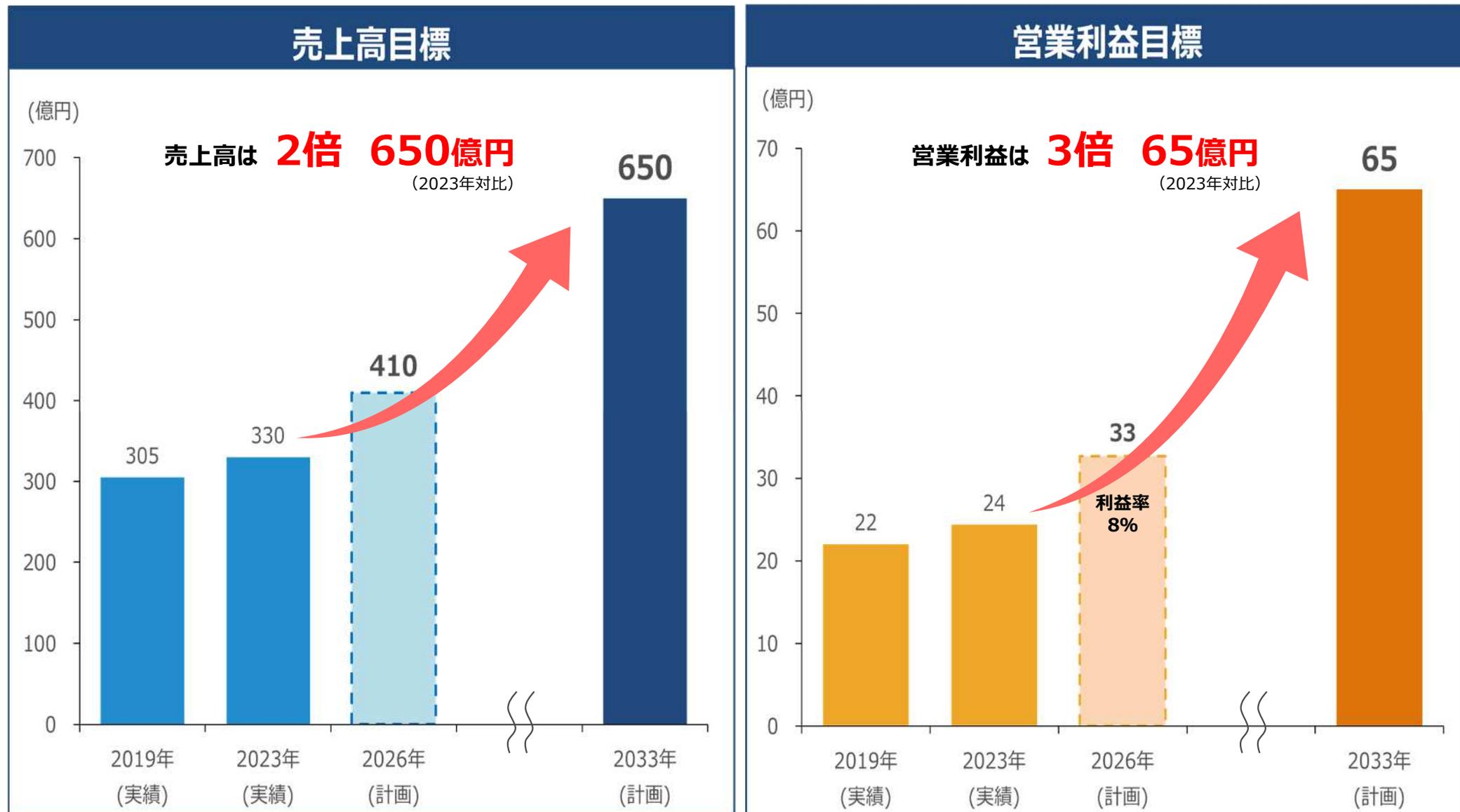
→ 世界の食生活が豊かになり人々が幸福に包まれる

Vision

長期ビジョン

4. 参考資料 中野冷機が目指す姿 2033年度までの数値目標

10年後に売上高は2倍の650億円、営業利益は3倍の65億円を目指す



4. 参考資料 中野冷機が目指す姿 長期ビジョン実現に向けた重点戦略

イノベーション -豊かさの提供-

業界をリードするモノ・コトづくりへの絶え間ない挑戦により社会に豊かさを提供

技術・ビジネスのイノベーションによる価値創出

食の安心・安全の追求

ショーケース・倉庫事業

メンテナンス事業

事業拡大 -日本・世界へ-

世界市場への積極的な事業展開と既存事業の価値最大化及び成長事業の創出・事業拡大

世界各国への進出

既存事業価値の最大化

海外事業

サステナビリティ -未来へ-

持続的な成長を支える社内体制を盤石にし、成長により創出される価値の提供を通じて社会課題を解決
持続可能な地球環境・社会の実現に貢献し、すべての人々に幸福を提供する

E 脱炭素・資源循環型社会への貢献

S 幸福な社会への貢献

G ステークホルダーから信頼される経営基盤の構築

カーボンニュートラル実現への貢献

持続可能な資源利用の推進

働きやすい・働きがいのある環境づくりの推進

人財育成とダイバーシティの推進

コーポレート・ガバナンスの強化

コンプライアンスの強化

基本方針

国内事業の強固な収益基盤をもとに市場拡大が期待される海外事業、新規領域への進出を強化

国内事業は、戦略的な投資により、コスト競争力の強化、効率化・合理化に基づく強固な事業基盤を構築し、そこで得た経営資源を今後市場の拡大が見込まれる海外事業・新規領域へ積極的に投入する

1 既存事業戦略

国内シェアの拡大と高利益体質事業への転換

- ・ 高付加価値製品・サービスの創出、生産体制の合理化・効率化による競争力の強化
- ・ 先進技術を活用した製品の低コスト生産の実現とDXを活用した業務・事業運営の高度化、効率化の推進

2 新規領域戦略

既存事業から派生する新規領域での事業創出

- ・ 既存事業で培った技術・ノウハウを活かし、成長分野での製品づくりと事業化を推進
- ・ 社会課題解決型ビジネスを含む新たなビジネスニーズの創出と事業化（脱炭素、健康、フードロス他）

3 海外事業戦略

事業拡大と体制の強化・拡充

- ・ アジア事業の拡大と新たな市場への積極的な事業展開による事業エリアの拡大
- ・ グローバル展開を支える体制整備の強化と拡充（営業、施工・メンテナンス、生産体制、製品開発）

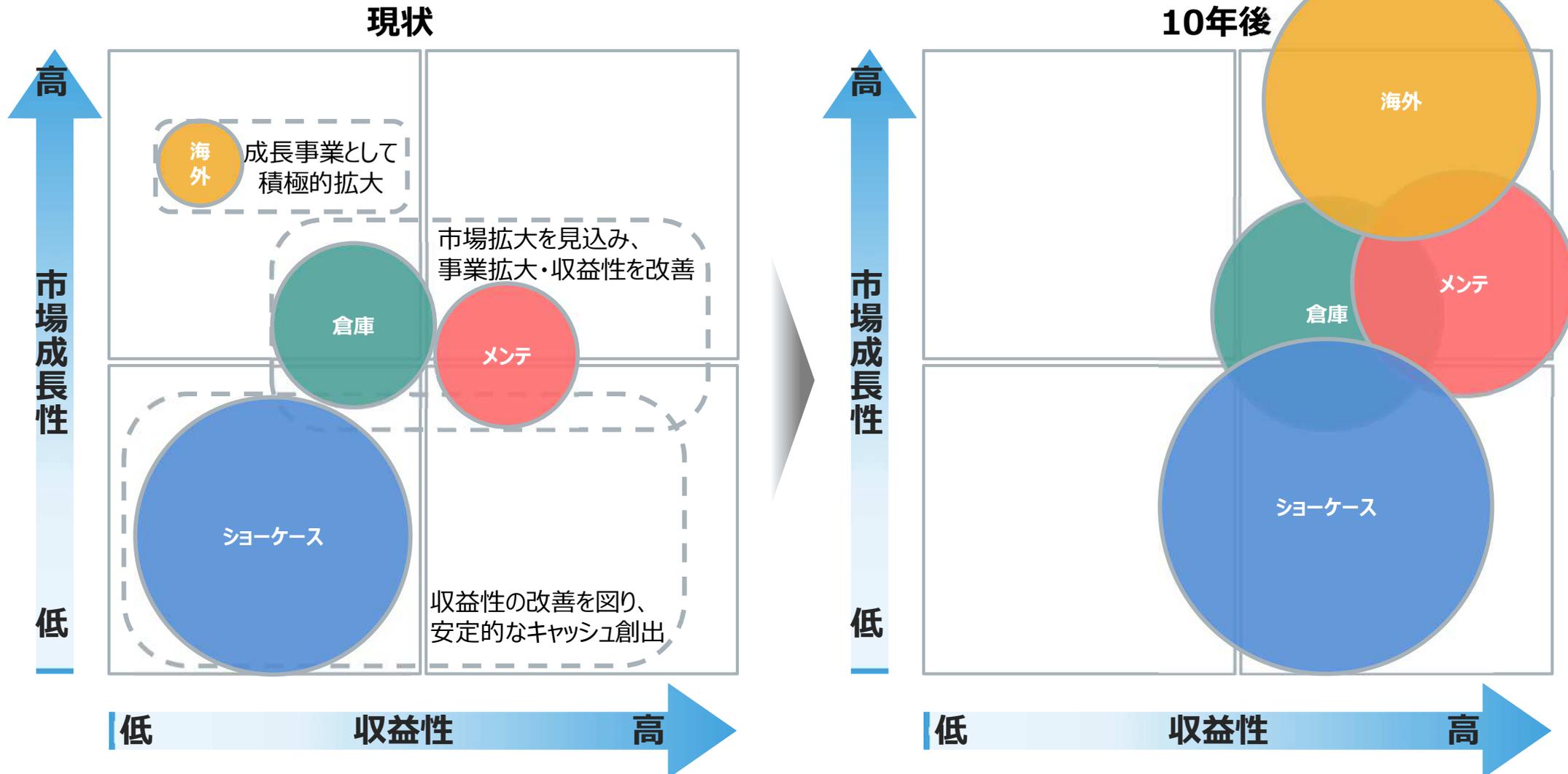
4 投資戦略

事業環境に合わせた戦略的かつ積極的な投資の実行

- ・ 成長投資：海外事業・新規事業の拡大を支える戦略投資の実行（M&A、新拠点設立、工場高度化、研究開発他）
- ・ 基盤強化：既存事業の収益力を強化する投資の実行（DX、人財、生産設備他）

10年後に目指す姿：事業構造

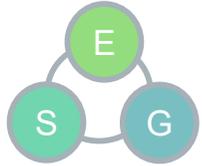
ショーケース・倉庫事業、メンテナンス事業の収益性を磨き、成長領域に経営資源を振り向ける
海外事業の拡大を図り、持続的に成長できる事業構造へと転換する



バブルサイズ：売上高 収益性：営業利益

ESGへの取り組み強化によって、持続可能な社会の実現に貢献し、すべての人々に幸福を提供する

サステナビリティ -未来へ-



脱炭素・資源循環型社会への貢献
幸福な社会への貢献
ステークホルダーから信頼される
経営基盤の構築



Environment ～環境への取り組み～



- グリーン冷媒への転換、冷媒ガス漏洩防止による温室効果ガス排出量削減
- 環境性能の高い製品・サービスの拡大による地球温暖化の抑制
- 事業活動により生じる環境負荷低減の推進

Social ～社会とのつながり～



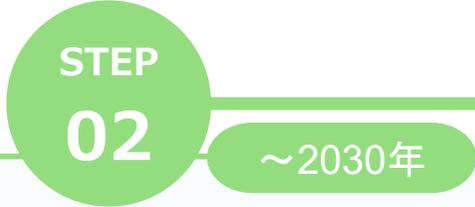
- 従業員が能力を最大限発揮できる環境づくりの追求
- 多様な人財を活かして伸ばす企業風土づくりの確立
- 社会課題の解決に貢献する製品・サービスを提供し、社会・すべてのステークホルダーとの共存共栄を実現

Governance ～ガバナンス強化～



- 既存の仕組み・体制の活用と改善を通して、より実効性の高い経営体制を構築し、すべてのステークホルダーからの信頼に応える
- グループガバナンス・リスクマネジメントの更なる強化
- コンプライアンスの徹底と情報セキュリティの強化

2030環境行動を推進し、2050年カーボンニュートラル実現へ向けた目標の達成を目指す



2030環境行動の推進と目標達成

2030環境行動

- **グリーン冷媒への転換**
冷媒のノンフロン化、低GWP*化への転換推進
- **冷媒ガスの漏洩防止**
施工、メンテナンス品質の更なる向上、AI漏洩予知システムの活用
- **環境性能の高い製品の開発**
冷媒のノンフロン化、低GWP化に加え、省エネ性の高い製品の開発
- **環境負荷の低減**
事業活動におけるCO2排出量の削減と廃棄物削減、製品の3R推進

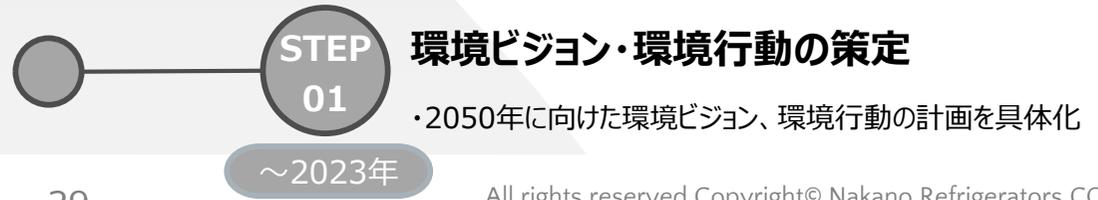
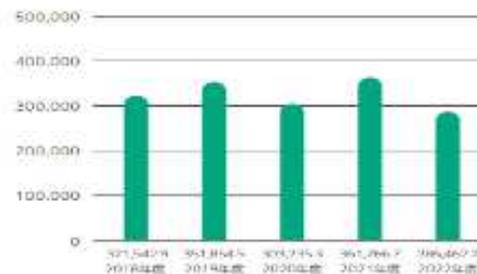
グリーン冷媒への転換 《2029年目標 加重平均GWP値》
 内蔵ケース : 750W超 : **450以下** 750W以下 : **150以下**
 別置型冷凍機 : 1.5KW超 : **750以下** 1.5KW以下 : **150以下**

※GWP：温暖化係数

冷媒ガスの漏洩防止 《2029年目標》
漏洩量CO2換算値：2016年比 **85%削減**

区分	漏洩量CO2換算値 <10年以内自社設備>		
	実績	目標	
	2016年	2029年	削減率
一般スーパー	13,630	2,045	85%
倉庫	2,865	430	85%
コンビニ	8,770	1,320	85%

事業活動に伴う排出量の推移 (t-CO₂)



活気ある職場づくりと多様性を尊重し、個人と組織が成長することで幸福な社会へ貢献する

取り組み実績（2019～2023年）

新中期経営計画の取り組み

期待される効果

働きやすい・働きがいのある環境づくりの推進



- 初任給の引き上げ・ベースアップによる給与水準の引き上げ実施
- 資格手当新設・資格取得支援体制の充実
- 改善提案表彰制度の創設
- ISO14001、45001認証取得による職場環境改善の推進
- 階層別教育制度の導入・開始
- グローバルキャリア開発研修を開始

ダイバーシティ



- 中途採用者の積極採用
- 女性社員の積極採用（新卒・中途）
- 外国人採用
- シニア人材の待遇改善として再雇用者の雇用年齢の引上げ

モチベーション高く生き活きと働ける環境づくり

- ワークライフバランスの推進
- 人事・報酬制度を見直し、より成果に見合った報酬水準を実現した人事・報酬制度を導入する
- 部課長職を中心とした研修の拡充と自ら考え行動し、成果を上げる「自律型人材」の育成強化
- 海外で活躍できるグローバル人材・DX人材の育成強化

KPI 2023年 → 2026年

有給休暇取得率（単体）	男性育休取得率（単体）
56% → 80%	25% → 80%

多様な人材が活躍できる社内風土の醸成

- 女性・シニア・グローバル人材が活躍できる制度の拡充及び社内風土づくり
- 育児・介護の両立を支援する制度の充実
- 日本女子サッカーリーグ「なでしこリーグ」とオフィシャルスポンサー契約締結

KPI 2023年 → 2026年

女性管理職比率（連結）	女性採用比率（単体）
9.9% → 12%	21.9% → 50%

自立した「個」の成長



多様な発想による組織成長

長期的な企業価値向上に資するコーポレートガバナンス体制の整備及び実効性の向上を目指す



設立

1946年（創業1917年）

資本金

8億2,265万円

事業内容

- 小売店の商品陳列に利用される冷凍・冷蔵ショーケースの販売・メンテナンス
- 冷凍・冷蔵倉庫の建設・メンテナンス

所在地

- 本社 : 東京
- 支店・営業所 : 大阪・岩手
- 工場 : 茨城
- サービスステーション : 神奈川・千葉・茨城
福島・宮城



子会社

- 上海海立中野冷機 有限公司
- 株式会社 中野冷機神奈川
- 大分冷機 株式会社
- NAVI GATE JAPAN COMPANY LIMITED



従業員

579人（2024年12月末）

4. 参考資料 沿革

1917年 (大正6年)
東京市豊作区新田町に社代表長 松中野繁吉氏が竣工を動員

1924年 (大正13年)
中野式アンモニア冷凍機を開発し、販売を開始

1946年 (昭和21年)
株式会社中野冷凍機製造の発起により、資本金100万円をもって東京市豊作区芝浦2丁目3番地に設立

1948年 (昭和23年)
港区西芝浦3丁目1番地に芝浦新工場を建設

1954年 (昭和29年)
我が国最初の冷凍機製造ステンレス製サービスショーケースを開発

1955年 (昭和30年)
大東オープンケースを開発し、生産販売開始

1956年 (昭和31年)
文部省第1次南極地域観測隊用の冷凍食品貯蔵用冷凍ユニットを製造納入

1959年 (昭和34年)
港区西芝浦3丁目2番地に本社ビルを建設、移転

1963年 (昭和38年)
埼玉県川口市にショーケース工場(新工場)を建設

1968年 (昭和43年)
食品店用設備機器メーカー「ハスマン社(現OQ)」と技術販売提携契約を締結

1974年 (昭和49年)
セブンイレブン1号店、豊洲店を施工

1976年 (昭和51年)
東京都葛飾区に結城工場を建設(製造部門を新工場から結城工場へ移転)

1980年 (昭和55年)
中野冷凍株式会社に社名変更

1981年 (昭和56年)
全額資本金を結城工場に集約

1985年 (昭和60年)
港区芝浦2丁目15番地4号に新本社ビルを建設

1986年 (昭和61年)
社団法人日本証券業協会に株式を店頭登録

1987年 (昭和62年)
東海運輸料値ひかり等のビューフェードカフェテリア専用ショーケースを開発

1989年 (昭和64年)
中国・上海に合併会社「上海双橋中野冷凍有限公司」を設立

1991年 (平成3年)
ハスマン社との技術販売提携期間が満了となり、23年間続いた契約を終了

1994年 (平成6年)
中国・上海に合併会社「上海双橋中野冷凍有限公司」を設立

1999年 (平成11年)
結城工場にて品質マネジメントシステム ISO9001 を認証取得

2000年 (平成12年)
結城工場にて環境マネジメントシステム ISO14001 を認証取得

2002年 (平成14年)
中国・上海の合併会社が「上海双橋中野冷凍有限公司」に社名変更
品質マネジメントシステム ISO9001 会社法大認証取得

2003年 (平成15年)
株式会社ヒロシ冷凍の全株式を取得し、株式会社中野冷凍 神奈川へ社名変更

2004年 (平成16年)
日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に証券を上場
結城工場にて労働安全衛生マネジメントシステム OHSAS18001 を認証取得

2007年 (平成19年)
大分冷凍株式会社の全株式を取得

2010年 (平成22年)
ジャスダック証券取引所と大東証券取引所の合併に伴い、大東証券取引所 JASDAQ に上場

2013年 (平成25年)
東京証券取引所と大東証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード) に上場

2017年 (平成29年)
結城工場に新築設備の建設・稼働

2019年 (令和元年)
結城工場にて労働安全衛生マネジメントシステム ISO45001 を認証取得

2020年 (令和2年)
結城工場に倉庫棟を建設

2021年 (令和3年)
労働安全衛生マネジメントシステム ISO45001 会社法大認証取得

お客様のご要望を第一に考え、設計から製造・施工・メンテナンスまでを総合的にご提案させていただきます。

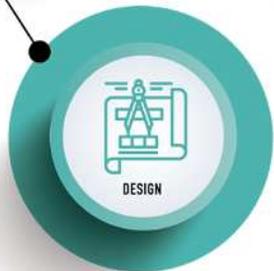
① | 提案

お客様のコンセプト・ご要望に応えることのできる、様々なご提案を準備します。点検データ、メンテナンスデータを活用した改善提案なども定評があります。



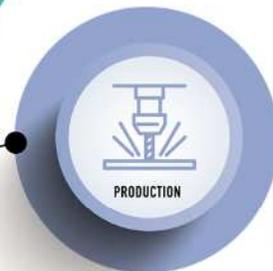
② | 開発・設計

確かな鮮度管理と省エネ対策を可能にし、お客様のご要望やイメージを実現するために、製品仕様の設計を技術部門が担当します。



③ | 製造

コンピュータ制御の最新生産システムと熟練作業者の高い生産技術を融合させ、高品質の製品を短いリードタイムでつくりあげます。



④ | 施工

最良の冷凍・冷蔵設備を設計し、建築業者等との工程や取り合いを調整します。安全で高い品質の施工を提供します。

⑥ | メンテナンス

独自のメンテナンス体制を活用し、24時間・365日の体制で万が一のトラブルに対応します。



⑤ | 店舗オープン

受注

お客様が求める製品を、的確に提案・受注

- 製品の共同開発など、長期の関係性に基づくニーズを理解した提案
- 小売店の事業環境変化に対応した柔軟な対応



設計

お客様からのご要望に応じ、設計図面を作成

- 店舗レイアウト最適化のため、大半が特注品
- 省エネ・環境規制対応のための最新技術も積極提案



製造

長年の経験に裏打ちされた、信頼性の高い製品製造

- 熟練の技術者による正確・迅速な組立
- ガス漏れ、着霜の少ない、安定した品質



施工

有資格者による施工管理で、安定した品質を担保

- 設備搬入、設置、連結、電気・管工事、試運転調整
- 業界で最も厳しい水準の基準書をもとに、専門部隊が現地で指揮



メンテナンス

“もしも”に備えた、24時間対応のメンテナンス体制

- 深夜の急なトラブルにも対応できる、全国規模のネットワーク
- 予防保全のための定期メンテナンスも併せて実施



受注

各種冷凍・冷蔵施設の倉庫建設を受注

- 食品倉庫、食品加工工場、配送センター等
- 営業・設計・積算まで一括対応可能な体制



施工

有資格者による施工管理で、安定した品質を担保

- 結露、着霜が少ない倉庫を建設し、商品ロスを最小化



メンテナンス

ショーケース同様の、24時間対応可能なメンテナンス体制

- メンテナンスデータを活用した更新提案



高鮮度管理と省エネ性を追求したショーケースやシステムを提案



省力化

● スライド棚取付



● フィルター簡易清掃



省エネ

● ガラス引戸取付



従来の引戸なし
仕様と比べて

年間
約 **31%**
省エネ^{※1}

● フレームレスドア付多段ケース



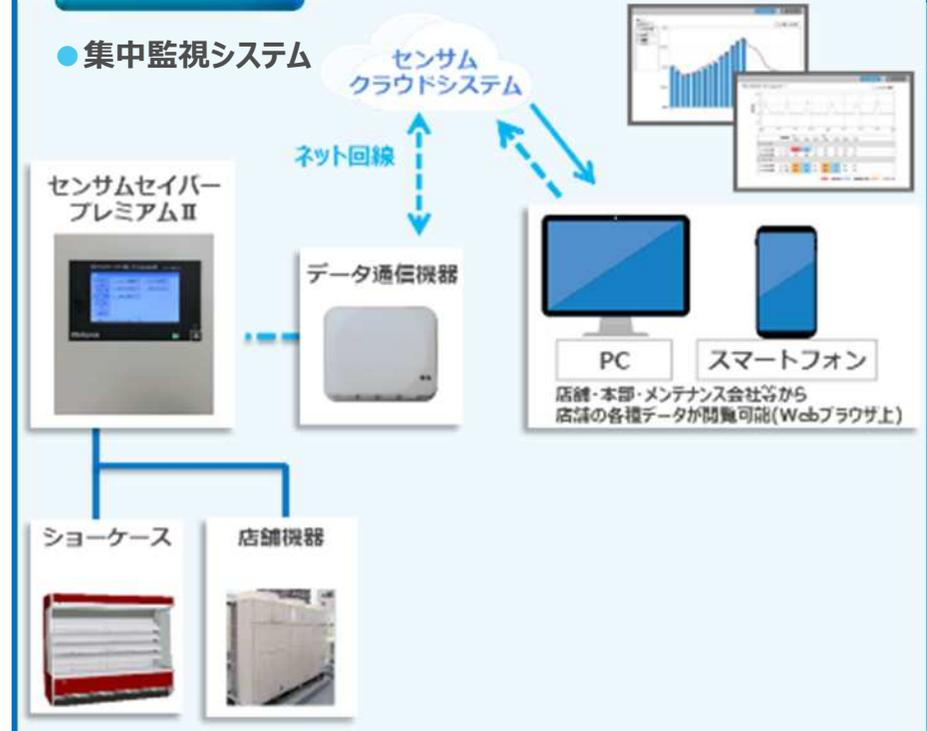
ドアなし
と比べて

年間
約 **50%**
省エネ^{※1}

※1 当社比。冷媒R404A定速冷凍機の場合

安心・安全

● 集中監視システム



性能改善と多彩な機能により、省エネ・高鮮度保持・省力化・演出性の4つのニーズに対応した新しいシリーズ

省エネ

安定した庫内温度の維持

▶省エネ性の向上を目指し、エアカーテンを改良することによって温度のバラつきが小さくなりました。

2010年
fGシリーズより

2017年
ES3シリーズ(LED)より

約30%

約5%

省エネになります。

※当社比(日配多段ケース最高26℃での対比。セミハイは1350タイプでの対比となります)



高鮮度保持

冷却構造の改良

▶ダクトの改善を図り、背面からも十分な冷気を送ることによって安定した品温の維持を提供します。

安心・安全の追求

▶適正な温度監視・冷却システム制御に対応した新型コントローラーにより、温度監視を強化します。



省力化

商品陳列の簡易化

●スライドデッキ機種種のラインナップ

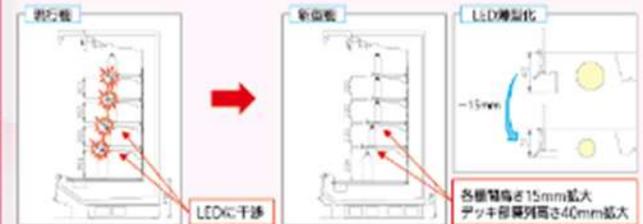
- ▶EPシリーズではスライドデッキ標準化機種をラインナップ。
- ▶デッキを跨ぐ陳列では、デッキを連結しての引き出しが可能。



演出性

商品陳列量拡大

- デッキ部陳列拡大
 - ▶設計の見直しにより、デッキ部の有効陳列高さが40mm拡大しました。
- 棚間高さ開口拡大
 - ▶LED薄型化により棚下有効寸法が7%アップ。500mlペットボトルが各種陳列可能になります。



ショーケース、冷凍・冷蔵庫、冷凍機、空調機器など店舗全体の機器をネットワーク化して最適制御する『集中監視システム』で店舗全体の新鮮度管理と省エネを実現



● 販売チャンスロスの低減

異常診断により故障の予兆を感知し、

- ・故障による販売チャンスロスを低減
- ・温度上昇による商品ダメージを低減
- ・修理コストを抑制



● HACCPへの対応

正確な温度記録を行い、温度データを表示・管理

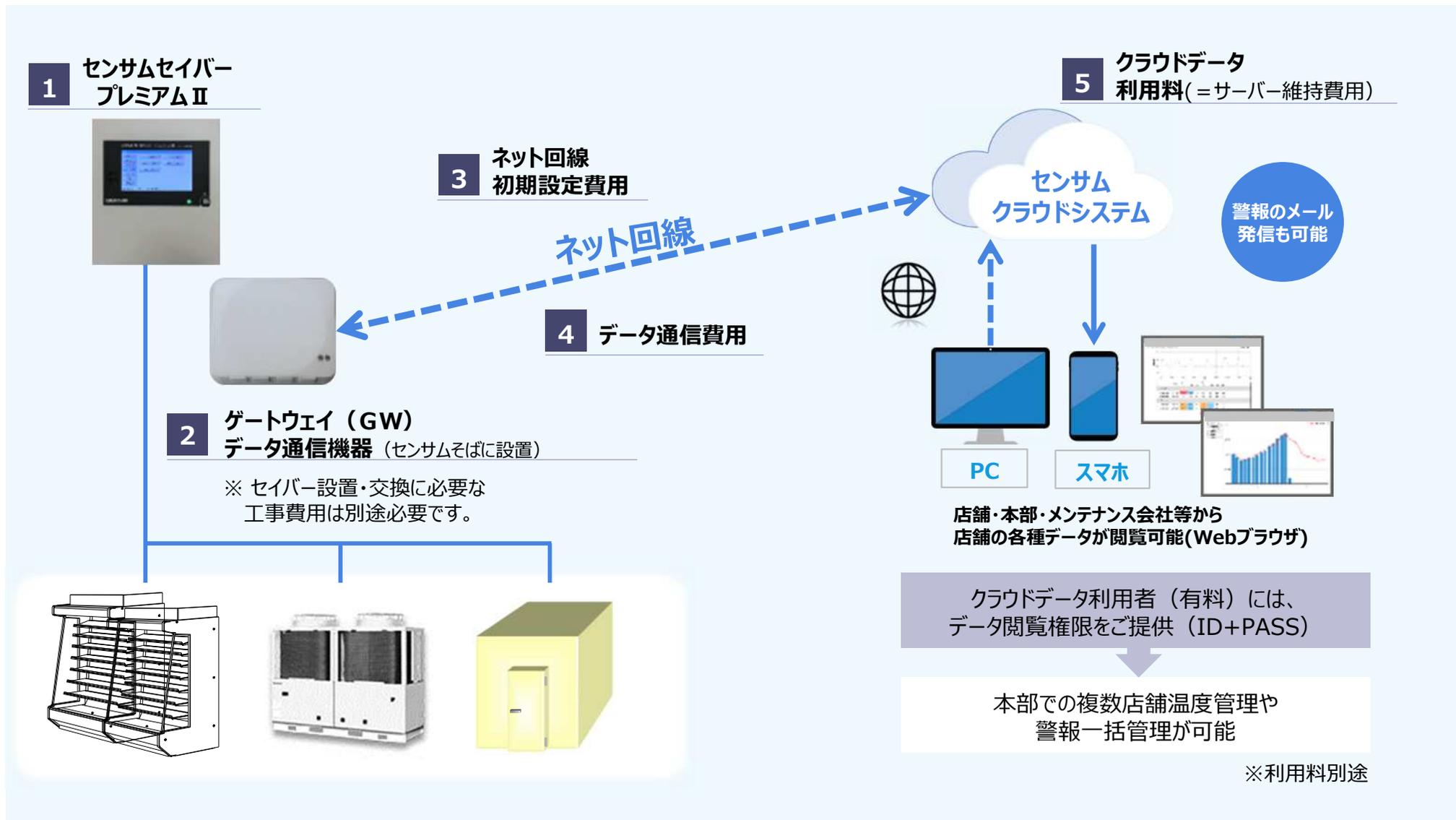
● 温度管理の省力化

クラウドの活用により、店舗ごとの情報の一元管理が可能

● ランニングコストの低減

店内外の環境に合わせた、細やかな省エネ制御を実現

クラウドシステムを利用することにより、お客様本部での複数店舗の温度管理や警報一括管理が可能に



1. 本資料は法律に基づく監査手続の対象外であり、本説明会の時点において、法律に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。
2. 本資料及び本説明会に含まれる予想値、将来の見通しに関する記述は、当社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。そのため、実際の業績は様々な要因により予測内容とは実質的に異なる可能性があります。当社は、将来に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
3. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、当社の株式の売買を勧誘するものではありません。
4. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。





Nakano

